

まちづくり交付金 事後評価シート
歴史文化が薫る有年駅周辺地区

平成 31年 3月

兵 庫 県 赤 穂 市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県		市町村名	赤穂市		地区名	歴史文化が薫る有年駅周辺地区			面積	183 ha			
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期	平成30年度		交付対象事業費	924	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
			基幹事業	道路(西側南北横断道路、東側南北横断道路、西側連絡道路)、地域生活基盤施設 駐車場ほか(情報版、駐車場、自転車駐車場)、高質空間形成施設(地域防災施設(耐震性貯水槽)、バリアフリー対応公衆トイレ、照明施設、モニュメント)、高次都市施設(総合案内所(観光交流センター))										
	当初計画から削除した事業		提案事業	地域創造支援事業(レンタサイクル事業)、事業活用調査(事業効果分析)、まちづくり活動推進事業(まちづくり協議会事業、歴史散策マップ作成)										
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	新たに追加した事業		基幹事業	道路(西側南北横断道路、東側南北横断道路、西側連絡道路の一部)			国交省が所管する国道2号バイパス整備事業との兼ね合いで工事時期の調整が必要となったため。			別事業で行うため影響なし				
			提案事業	なし										
交付期間の変更		当初	平成26年度～平成30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
		変更	なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	有年駅乗車客数	人/日	287	H25	315	H30		280	×	あり なし	●	・駅の利便性は増したが、指標に対する効果を発現する期間が不足していた。	平成31年6月
	指標2	通学路における危険箇所率	%	22	H25	5	H30		5	○	あり なし		・有年駅周辺道路の計画的な整備進捗により通学路の危険箇所率を減少した。	-
	指標3	歴史文化資源への来訪者数	人/月	455	H25	555	H30		204	×	あり なし	●	・有年考古館の運営方針変更により多様なイベント回数が減少したことが要因。	平成31年6月
	指標4										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	まちづくりイベント実施回数	回	1	H25				4			・地域の歴史文化遺産や自然環境を活用した魅力を発信した。	平成31年6月	
	その他の数値指標2													
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況														
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	実施無し					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	実施無し					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり体制の構築		・地元において組織化された有年駅周辺地区まちづくり協議会へ継続的な支援を行うことで住民主体の地域づくりを促す				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●			

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価	.. p 1
添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無	
添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)	
添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	
添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測	
添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況	
(2) 実施過程の評価	.. p 7
添付様式3-① モニタリングの実施状況	
添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況	
添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況	
(3) 効果発現要因の整理	.. p 8
添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制	
添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理	
添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理	
(4) 今後のまちづくり方策の作成	.. p10
添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制	
添付様式5-② まちの課題の変化	
添付様式5-③ 今後のまちづくり方策	
添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見	
添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画	
添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方	
添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)	
(5) 事後評価原案の公表	.. p14
添付様式7 事後評価原案の公表	
(6) まちづくり交付金評価委員会の審議	.. p15
添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議	
(7) 有識者からの意見聴取	.. p16
添付様式9 有識者からの意見聴取	

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	西側南北横断道路	607	L=848m	614	L=773m	事業費内訳及び事業量の変更	国道横断部を赤穂市道路整備事業で行うが、国道2号バイパス整備の事業進捗に合わす必要が生じた。なお、国道2号バイパス工完了までは迂回路を設置するため、まちづくりの目標、指標数値目標への影響はない。		●
道路	東側南北横断道路	191	L=831m	149	L=694m	事業費内訳及び事業量の変更	国道横断部を赤穂市道路整備事業で行うが、国道2号バイパス整備の事業進捗に合わす必要が生じた。なお、国道2号バイパス工完了までは迂回路を設置するため、まちづくりの目標、指標数値目標への影響はない。		●
道路	西側連絡道路	49	L=502m	40	L=404m	事業費内訳及び事業量の変更	国道横断部を赤穂市道路整備事業で行うが、国道2号バイパス整備の事業進捗に合わす必要が生じた。なお、国道2号バイパス工完了までは迂回路を設置するため、まちづくりの目標、指標数値目標への影響はない。		●
道路	有年考古館道路	17	L=150m	—	—	事業の削除	有年考古館道路を削除したが、全体の計画に比べて軽微な変更であるため、まちづくりの指標、指標となる数値目標への影響はない。		
地域生活基盤施設	情報板	14	20箇所	13	18箇所	なし		●	
地域生活基盤施設	駐車場	24	A=890㎡	6	A=890㎡	なし		●	
地域生活基盤施設	自転車駐車場	13	2箇所	13	2箇所	なし		●	
地域生活基盤施設	地域防災施設	20	2基	20	2基	なし		●	
高質空間形成施設	公衆トイレ	18	2箇所	21	2箇所	なし		●	
高質空間形成施設	照明施設、モニュメント	27	14基	26	8基	なし		●	
高次都市施設	総合案内所 (観光交流センター)	7	A=20㎡	7	A=20㎡	なし		●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	レンタサイクル事業	6	1式	6	1式			●	
事業活用調査	事業効果分析	5	1式	5	1式				●
まちづくり 活動推進事業	まちづくり協議会事業	3	1式	3	1式			●	
	歴史散策マップ作成	1	1式	1	1式			●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
有年土地区画整理事業		有年土地区画整理地区内	8,000	7,705	平成13年度～平成30年度	平成13年度～平成35年度	事業の進捗に伴い良好な市街地を形成している。	
有年横尾線(自由通路)整備事業		有年横尾線	430	389	平成23年度～平成27年度	平成23年度～平成29年度	南北一体化の促進に伴い多くの市民に利用されている。	
赤穂市公共下水道事業		有年土地区画整理地区内	3,600	3,600	平成10年度～平成31年度	平成10年度～平成31年度	事業の進捗に伴い良好な市街地を形成している。	
国道2号相生有年道路整備事業		国道2号相生有年道路	32,400	32,400	平成4年度～平成28年度	平成4年度～平成35年度	幹線道路として地域交通の要となっている。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし	
指標1	有年駅乗車客数	人/日	・有年駅乗車客数の年度合計を1年の日数で除して日平均利用者数を求めた。		287	H25	315	H30	モニタリング			モニタリング		●
									事後評価	確定見込み ●	280	事後評価	×	
指標2	通学路における危険箇所率	%	・地区内の通学路の総延長に対し安全・安心な対策を要する道路延長の割合を求めた。		22	H25	5	H30	モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み ●	5	事後評価	○	
指標3	歴史文化資源への来訪者数	人/月	・赤穂市有年考古館の利用者数の年度合計を月数で除して月平均来訪者数を求めた		455	H25	555	H30	モニタリング			モニタリング		●
									事後評価	確定見込み ●	204	事後評価	×	
指標4									モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価		
指標5									モニタリング			モニタリング		
									事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	・周辺道路の整備により駅の利便性は増したが、有年駅の交通結節点機能を強化する駐車場や自転車駐車場の供用開始が平成29年度であり、指標に対する効果を発現する期間が不足していたと考えられる。	
指標2	・通学路危険箇所率は目標値に達しており、道路整備事業や土地区画整理事業に伴う周辺道路の計画的な整備進捗を行ったため。	・地区内通学路延長の計測は、関連事業を含めて通学路に指定できる道路整備が進捗した路線も含める。※歩道付き路線のみ対象
指標3	・見込値が目標値とかけ離れており達成できないことが予想される。	・赤穂市有年考古館の運営方針の転換により多様なイベント回数が増加したことが要因として整理できる。 ・目標値と評価値が乖離し、指標としては用いることができないと考えられる。
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
				基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	まちづくりイベント実施回数	回	・地元主催のイベント回数を活動記録簿で確認し求めた			1	H25	モニタリング			4	本地区の目標である歴史文化遺産や自然環境を活用した魅力の発信を表す指標であると 考えられるため。
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
特になし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
特になし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
地元において組織化されたまちづくり団体 への支援	予定どおり実施した	●	有年駅周辺地区まちづくり協議会	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	<ul style="list-style-type: none"> 企画広報課 生涯学習課 産業観光課 建設課 区画整理課 	平成30年10月31日	建設経済部区画整理課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		その他の指標1		指標〇		指標〇	
指標名		通学路における危険箇所率		まちづくりイベント実施回数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	西側南北横断道路	◎	・道路整備事業や土地 区画整理事業に伴う周 辺道路の計画的な整 備進捗により通学路の 危険箇所率が減少した と考えられる。	◎	・身近な観光施設との 連携を図ったまちづくり イベントを通じて、地域 の歴史文化遺産や自 然環境を活用した魅力 を発信したと考えられ る。 ・地元において組織化 された有年駅周辺地区 まちづくり協議会が開 催するイベントにより参 加者も増加し、イベント 回数は比例して増加し たと考えられる。				
	東側南北横断道路	◎		◎					
	西側連絡道路	◎		◎					
	有年考古館道路	○		◎					
	情報板	—		◎					
	駐車場	—		◎					
	地域防災施設	—		○					
	公衆トイレ	—		○					
提案事業	照明施設、モニュメント	—		◎					
	レンタサイクル事業	—		◎					
	まちづくり協議会事業	—		◎					
関連事業	歴史散策マップ作成	—		○					
	有年土地区画整理事業	◎		◎					
	有年横尾線(自由通路)整備事業	○		○					
	赤穂市公共下水道事業	—		—					
	国道2号相生有年道路整備事業	◎		◎					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	<ul style="list-style-type: none"> 今後も関連事業を含めた周辺整備を進めると共に、生活環境が充実した利便性の高い地域の形成を図る。 有年駅周辺地区まちづくり協議会が実施する歴史文化遺産や自然環境を活用したイベントの持続的な活動を促す。 			
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3			指標〇			指標〇		
指標名		有年駅乗車客数			歴史文化資源への来訪者数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	西側南北横断道路	△	・周辺道路の整備により駅の利便性は増したと思われる。 ・有年駅の交通結節点機能を強化する駐車場や自転車駐車場の供用開始が平成29年度であり、指標に対する効果を発現する期間が不足していたと考えられる。	Ⅲ	△	・有年考古館の運営方針の変更により、多様なイベント回数が減少したことが要因として考えられる。 ・よって、目標値と評価値が乖離し、指標としては用いることができないと考えられる。	Ⅲ						
	東側南北横断道路	△			△								
	西側連絡道路	△			△								
	有年考古館道路	△			△								
	情報板	△			△								
	駐車場	△			△								
	地域防災施設	△			△								
	公衆トイレ	△			△								
提案事業	照明施設、モニュメント	△			△								
	レンタサイクル事業	△			△								
	まちづくり協議会事業	△			△								
	歴史散策マップ作成	△			△								
関連事業	有年土地区画整理事業	△			△								
	有年横尾線(自由通路)整備事業	△			△								
	赤穂市公共下水道事業	△			—								
	国道2号相生有年道路整備事業	△			△								

※目標未達成への影響度

- × × : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- × : 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △ : 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ : 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ : 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ : 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ : 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>・周辺道路整備を含む交通結節点機能の強化や、有年地区まちづくり協議会との連携を活用しながら、引き続き目標の達成を目指す。</p>	<p>・基盤整備を活かしながらレンタサイクル事業と歴史散策MAPの情報発信により、回遊性の向上に努め来館者数の維持及び増加を目指す。 ・情報発信については赤穂市と赤穂観光協会のホームページにおいて、相互連携を図る。</p>	
------------------	---	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	<ul style="list-style-type: none"> ・企画広報課 ・生涯学習課 ・産業観光課 ・建設課 ・区画整理課 	平成30年10月31日	建設経済部区画整理課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<ul style="list-style-type: none"> ・交通結節点の向上、有年駅周辺の賑わい再生のため道路・広場等と合わせ災害対策としての安全・安心な生活基盤整備が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場の整備、総合案内所の開設、自動車及び自転車の駐車場など、交通結節点機能が格段に向上し、関連事業を含む基盤整備により駅前の利便性が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有年駅の乗車客数が伸び悩んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や、歴史文化遺産への回遊者、有年駅の利用者等が地区の南北を安全・安心にアクセスできる交通路の整備が急務となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区南北横断道路の整備及び関連事業による接続道路の整備によって、有年駅を一円する計画的な道路網が構築され、合わせて生活者、回遊者、駅利用者の安全。安心な主要交通路には歩道ネットワークも強化された。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化遺産等、観光資源を有効活用するための交通手段の確保やサインの設置が急務となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤整備の強化に合わせた情報版の設置、レンタサイクル事業や歴史散策マップ作成の相乗効果により、交通手段や誘導案内が円滑化し、観光振興に寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有年考古館の来館者数が伸び悩んでいる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・有年駅周辺の賑わいの再生のため、土地の利活用の検討や観光資源の開発・発信等、まちづくり活動推進に向けた協議会の設置が急務である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・有年駅周辺地区まちづくり協議会が設置され、地域の歴史文化遺産や自然環境を活用した魅力の発信を目的に地域まちづくりイベントが開催されている。 		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・交通結節点機能の強化	・生活環境が充実した利便性の高い地域の形成による賑わいの再生	・有年土地区画整理事業の整備推進を図る ・本地区及び周辺施設を活用した有年駅周辺地区まちづくり協議会のイベント開催
	・歴史文化遺産や自然環境の魅力発信	・有年駅周辺地区まちづくり協議会のイベントへの積極的な連携による賑わいの再生 ・身近な観光施設の継続的なPRの推進	・SNSによる広報等を通じたイベントの告知

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・有年駅の乗車客数の伸び悩み	・基盤整備による都市機能の充実と居住環境の向上を図る	・有年土地区画整理事業の整備推進を図る
	・有年考古館の来館者数の伸び悩み	・レンタサイクル事業と歴史散策MAPの活用による回遊性の向上	・赤穂市と赤穂観光協会のホームページの相互連携による情報発信(レンタサイクル事業と歴史散策MAP)
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	有年駅乗車客数	人/日	287	H25	315	H30	確定	280	×	あり	●	→	平成31年6月	有年駅乗車客数の年度合計を1年の日数で除して日平均利用者数を求める。	
							見込み ●			なし					
指標2	通学路における危険箇所率	%	22	H25	5	H30	確定 ●	5	○	あり	●	→			
							見込み			なし					
指標3	歴史文化資源への来訪者数	人/月	455	H25	555	H30	確定	204	×	あり	●	→	平成31年6月	赤穂市有年考古館の利用者数の年度合計を月数で除して月平均来訪者数を求める。	
							見込み ●			なし					
指標4				H		H	確定			あり	●	→			
							見込み			なし					
指標5				H		H	確定			あり	●	→			
							見込み			なし					
その他の数値指標1	まちづくりイベント実施回数	人	1	H25	/		確定	4		あり	●	→	平成31年6月	有年駅周辺地区まちづくり協議会の活動記録簿を確認する。	
その他の数値指標2				H	/		見込み ●			なし					
その他の数値指標3				H	/		確定			あり	●	→			
					/		見込み			なし					

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・道路整備事業と有年土地区画整理事業による基盤整備により通学路の危険箇所率の低減が図られた。	
	うまくいかなかった点	・有年駅乗車客数と有年考古館の来館者数において事業効果を確認できなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・通学路における危険箇所率を指標とすることで基盤整備の効果発現が確認出来た。	
	うまくいかなかった点	・交通結節点機能の向上として駅前広場を含む一連の施設整備を行ったが、供用開始時期の関係から効果発現を確認できる期間が不足した。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・有年駅周辺地区まちづくり協議会が創設され本地区周辺の歴史文化遺産や自然環境を活用したイベント開催により、地域の魅力発信を行うことが出来た。	
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・関係機関と相互に話し合う機会を持てたことにより、より効果的な事業の推進が可能となった。	
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	平成30年11月22日 ～平成30年12月5日	平成30年11月22日 ～平成30年12月5日	電話 FAX 電子メール 持参	赤穂市建設経済部 区画整理課
広報掲載・回覧・個別配布	広報誌に掲載	平成30年11月22日	平成30年11月22日 ～平成30年12月5日		
説明会・ワークショップ					
その他	赤穂市区画整理課及び市内 公民館9カ所で縦覧	平成30年11月22日 ～平成30年12月5日	平成30年11月22日 ～平成30年12月5日		

住民の意見	<p>■意見の集約(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有年地区の住民として、この事業に対する計画及び実施に対し深く感謝します。 ・今後への期待として、国道等の整備に合わせて生活の核となる商業施設等の誘致により、更なる居住環境の確保(定住)、集客力アップによる持続可能な地域社会へと発展して欲しい。 <p>■持続可能な地域社会への構築として、今後、期待する取り組み(詳細)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車でしか買い物などへ行けない現状から、本事業を活かす取り組みとして次の2つの意見に整理できます。 ①大型商業施設の開業 <ul style="list-style-type: none"> ・大型商業施設が開業した場合、中小商業施設等も付近に展開することが期待され、集客力のアップによる交流人口の増により有年駅を中心としたまちづくりが推進され、については居住環境の確保による人口増や定住化の促進も図られると思います。 ・大型商業施設の用地は、遊休農地(耕作放棄地)の環境悪化も懸念されているため、この用地の活用により地域の住環境も維持(整備)されると思います。 ②三位一体の整備推進 <ul style="list-style-type: none"> ・国交省は国道2号の4車線化整備、兵庫県は千種川の洪水対策、赤穂市は有年土地区画整理事業を進めているため、相互連携を図りながら、更なる事業展開を図っていただきたい。
-------	--

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	宇高 雄志(兵庫県立大学 環境人間学部 教授)	平成31年1月23日	赤穂市建設経済部 区画整理課	赤穂市都市再生整備計画事業 事後評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	沖 知道(赤穂市自治会連合会 会長) 田淵 新悟(赤穂観光協会 会長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価を適正に実施したことが確認された。
	成果の評価	・その他の指標として地元主体のまちづくりイベント実施回数を追加した理由について、都市再生整備計画事業による基盤整備を根幹に、身近な観光施設との連携を図ったまちづくりイベントを通じて、本地区の目標である歴史文化遺産や自然環境を活用した魅力の発信に貢献する指標として値すると考えられ、評価委員の理解を得られた。
	実施過程の評価	・実施なし
	効果発現要因の整理	・適正に実施したことが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表したことが確認された。
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・事後評価内容を活かした今後のまちづくり方策を作成していることが確認された。 ・SNSなど情報発信ツールの活用による周知は集客効果が大きいとの実感を述べられ、今後も積極的な利活用を期待し、また、有年駅周辺地区まちづくり協議会では、今後、更に歴史文化遺産や自然環境を活用した魅力の発信の一部として、地区内で地域の農産物販売イベントを企画検討しているとの情報提供があった。
	フォローアップ	・フォローアップの実施計画が適正であることが確認された。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・事後評価原案の公表により、地域住民から都市再生整備計画事業への感謝の声が届いたことに感心され、事業効果があった証拠ではないかとの考察をいただいた。 ・ただし、もう少し地域住民から意見をいただけるよう公表の方法については、更に工夫して欲しいとの所見があった。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--